



# 手をたずさえて

## 昨年とは変わったメッセージの感じ方！

今回のライブの3年生の捉え方に人間としての成長を感じました。感動、勇気、元気、希望というキーワードに加え、“現状とこれから”、“自己を見つめる眼”、“授業での学びとの関連”、“学級のめあてへの位置付け”など様々な視点からの捉え方がありました。さすが3年生です！この号では、3年生のメッセージを紹介します。

■ 太郎さんの「どんなことにもあきらめず、まずは挑戦する」という強い心をもっているところがすごいと思いました。昨年とは違って、一つ一つの曲に勇気をもらえるようなメッセージがこめられていて、心が強くなった気がします。私は、「ぼくにはきみがいる」という曲に心動かされました。人に限らず、植物や雨も一人や一つのものだけで生きているのではなく、誰かがいて支えてくれる、だから生きている、ということを歌を聴く中で感じました。また、家族が笑っている顔、幼なじみの笑ってる顔、みんなが輝いている姿が頭に浮かびました。《生きる》も昨年とはぜんぜん違いました。一つ一つの言葉が強くて心に刺さりました。この詩を読むと、今までの中学校生活の中の楽しかったこと、つらかったこと、悲しかったこと、悔しかったことが出てきて、でもその経験は無駄ではなかったと感じさせられました。《生きる》の中には深い事柄がたくさんあって、今を生きるだけでなく、未来を生きるという意味もこめられていて、一日一日がとても貴重で大切だということがわかりました。私は、今年受験をする身なので、今回のライブで学んだことを受験に生かし、強い心でねばり強く生きていきたいです。私も将来《生きる》にあるように、「まわりに必要とされる存在」になって人のために働けるよう、日々笑顔忘れず、仲間を大切に、自分に自信と日々挑戦する心をもって生きていきたいです。(3年女子)



■ 今回は1学年上になったということもあり、一つ一つのメッセージの感じ方が、前回とは全く違くなり、自分に思いあたることが多くありました。僕も太郎さんと同じように夢に向かって「失敗を考えずに今できることをやろうとする」人間で、今まで様々な物事に対して、この言葉を一番に考えて行動してきました。この言葉を大切にしている理由として、失敗を考えてしまうと絶対に失敗してしまうと思っているからです。なので、これから受験を迎える今、私はこの言葉をモットーに絶対合格すると思いつけて勉強に励んでいます。僕の夢は、「人のためになることをしたい」ということです。太郎さんのように音楽で人を笑顔にする仕事ではありませんが、中学3年になって、人のために働き、感謝や笑顔、応援されることの嬉しさが何となくわかるようになりました。また、仕事に対して、どれだけの熱い想いで、どれほどの努力をしてきたのかが、その仕事を良い方向にもっていく大切な要因になっていると、今回のライブを通して感じる事ができました。太郎さんの歌や曲には、喜びや悲しみ、感動や苦難などが詰まっています。太郎さんの人生がいかに思い深いものであったかを感じ、とても感動しました。中学3年の夏から気づき始めた、人は一人では最高の思い出をつくったり、最大の壁を乗り越えたりすることができないということも思い返すことができました。11月22日ライブ当日の学級のめあては、『増田太郎さんの気持ちを読み取ろう』でした。学級全員が「気持ちを読み取れた」と言っていて、1学年あがり自分だけでなく、クラスの気持ちが成長したことに、他人行儀ですが感動しました。今回のライブで、学年が上がり感じる事が変わるなど、自分自身の成長を感じる事ができました。(3年男子)

■ 去年の自分と比べてみて違うものを感じました。2年生の頃は学校生活を送ることに必死で、「生きる」ということについて深く考えられませんでした。ですが、今年は胸にグッとくる言葉が多くありました。特に“人は一人では生きていけない”という言葉に思うところがありました。自分のことで精一杯で、周りを見れず一人で頑張らないといけないうちで過去の自分に言ってあげたいと思いました。(3年女子)





■ 今年は2回目で一番前で聴けたということもあり、ところどころに小さな音が入っていたり、デクレシェンド+ビブラートなのに最後まで音がブレていないのを聴いてすごく尊敬しました。私が一番衝撃的だったのは、「タンゴ・ボヤージュ」でした。太郎さんの曲というゆつたりとのびやかなイメージがありました。が、前奏が始まった時からのカッコよさ。カッコよいというよりも、疾走感、グルーブ感のような、とにかく聴き惚れました！もう一つ私が聴き惚れたのは、「家路 on my way home」、それに続く「浜辺の歌」でした。この2曲を聴いた時、とても心から幸せ、と思えた時の風景、風、香り、温かさがフワッとよみがえってきました。太郎さんの「音で絵を描きたい」という夢から、さらにそれを超えた香り、温

度度、光…などの感覚を呼び起こしてくれ、さらに与えてくれます。もちろん、輝く未来や生きる希望も。最近、なんだか気分がナーバスになっていた私ですが、とにかく進め！と前向きになることができました。(3年女子)

■ 去年の《生きる》というテーマに加えて、自分の生きる意味である《だから、生きる！》へと変わっていました。このライブでは、私達の《生きる》本当の意味について触れられたと思います。私はこれまで考えてもなかった自分の《生きる》意味を知り、詩と今の私達を重ねてみました。この詩には、私達が普段当たり前だと思っていることが、どれだけ大切かについて書かれていると思います。私はこの詩を聞いた時、改めて自分がこうやって生きていることについての重大性に気付くことができました。そして、私は、この詩のように生きることでできない人がいることも考えました。私達3年生は、今、道徳で世界で起きている紛争や差別の問題について学んでいます。私達は毎日を不安なく生活しています。しかし、世界の他の地域での人々はどうか。紛争地域の子供達は、親を殺され、自分が戦争に参加せざるをえない状態にあたりします。また、国内から出ることができず毎日をおびえながら暮らしている人だって何万人といます。その人達にはこの詩のように生きていくことは難しいと言ってよいでしょう。私達は、その気になれば詩のように生きることができます。だからこそ、紛争や差別に苦しむ人々の思いを背負って生きていく必要があると思います。このようなことを太郎さんのライブを通して深く考えることができました。(3年男子)

■ 昨年の講演ライブで私は、「一人では生きていけない」「一人では生きてはいけない」という言葉が心に残りました。今年も昨年以上にこの言葉が心に響きました。今年は、2年連続で聴いたことで、なぜこんなにも太郎さんのヴァイオリンに引き込まれてしまうのだろう、という疑問が生まれました。しかし、講演ライブを聴いているうちに答えは見えてきました。それはとても単純なことでした。太郎さんは常に「相手を考えている」ということでした。太郎さんが演奏してくれた「ぼくにはきみがいる」という曲。これは、このような太郎さんの想いが込められている曲でした。「空と海」「くちびると歌」「瞳と光」、そして「私達と太郎さん」…私はたくさんのお話を学びました。ですが、ふと「私には何だろう？」と思いました。私にはまだその答えが見つかりません。だからこそ、生きていこうと思います。その答えを探すために、たくさんのお話に挑戦し、「とにかくやってみよう」と思います。(3年女子)

■ 私のクラスでは、道徳の時間に「なぜ生きるのか」ということを考えました。私は正直あまり考えたことがなかったです。しかし、今回の太郎さんの今までの人生の道のりや《だから、生きる！》についての考え方が聞けて、私は「そうなんだ！」と思っただけでなく、これからの生き方に意味を持たせることが、努力をすればいつかは訪れるんだなと思いました。太郎さんが子ども頃から思っていた「音で絵を描く」ということは、今の私にも重なるところがあり、勇気をもらえました。「音楽で人と人をつなぐ」ということは、思いやりの心、音楽への情熱、そして毎日の頑張りがないとできないことだと思うので、太郎さんはそれだけ日々、様々なことと戦ってきたけれど、様々な人の支えがあって生きたきた方なのかな、と思いました。私自身、努力したけど結果がでないということが今までにあったし、これからも多分あると思います。けど、太郎さんのことを思い出し、何か熱中するものを見つけ、生き方に意味を持たせ、努力を積み重ねていきたいと思います。(3年女子)



星大樹君の指揮、倉澤舞さんの伴奏による校歌合唱コラボ



《生きる》群読新旧メンバー

## 《生きる》群読とのコラボ再び!! そして、校歌合唱も!

昨年に続き今年も《生きる》群読と太郎さんのコラボが実現しました。このコラボの反響は今年もとても大きいものでした。今年は2年田母神稟君、馬場翔悟君、狗飼康生君、高徳心暖さん、菊池優菜さん、白鳥瑞希さんの6名での挑戦でした。太郎さんのヴァイオリンが6名の群読と見事にマッチし心に沁み渡るコラボとなりました。そして、ライブの最後を締めくくったのは、全校生による校歌合唱と太郎さんのコラボでした。「普段とは違う校歌合唱になった。」「校歌がいつもよりちょっとおしゃれに感じた。」「良い思い出・誇れる経験になった。」等の感想が見られました。太郎さん、たくさんパワーをいただきました。本当にありがとうございました!

